

令和4年度 経営協議会の学外委員からの意見等に対する対応状況

SDGsに関連付けた情報発信について

大学の各分野での業務実績を SDGs のテーマに関連付けてアピールしていったらどうか。

(令和4年6月7日開催 第1回経営協議会)

<対応状況>

SDGs と関連して設定している第4期中期計画及び令和4年次計画の実施状況を「令和4事業年度に係る業務の実績に関する報告書 概要版」(年次計画について特記する取組・成果等をまとめ、ステークホルダーに対して説明する冊子)に取り上げ、本学の取組についてアピールした。また、令和5年度以降のSDGsに関する情報発信の強化を狙いとして、「教員活動状況データベース」により収集している教員の研究成果等の情報をSDGsに関連付けて学外公開することについて検討を開始した。

国際交流について

- ・アメリカ、カナダに重点を置き、さらなる海外協定校を開拓してほしい。
- ・協定校の数を増やすことも重要であるが、いかに世界の優秀な学生を取り込むかが重要である。また、お茶の水女子大学が強みを持つジェンダード・イノベーション等の分野で、多様な文化圏と関係を構築してほしい。

(令和4年6月7日開催 第1回経営協議会)

<対応状況>

- ・令和5年9月に学長の北米出張を実施し、複数大学を訪問した。ノースイースタン大学では新規に教育・研究における連携協定を締結し、ウェルズリー大学及びバーナード・カレッジでは学生交流等を通じた連携の可能性について協議するなど、本学の国際交流の拡大に資する機会となった。また、カリフォルニア大学バークレー校及びスタンフォード大学ではジェンダード・イノベーション分野の創設者等と研究協力に関する議論を行い、学術交流の具体的協議を進展させることができた。さらに、滞在中には海外同窓生も含め広く交流に努めた結果、新規の寄附金の申し出や協定候補校の紹介を得ることにつながった。
- ・世界の優秀な学生の取り込みについて、令和4年度「大学の世界展開力強化事業」として「グローバルリーダー育成のための「女子大学発」実学型 EDI プログラム」が採択され、イーストアングリア大学(イギリス)・シドニー工科大学(オーストラリア)・プレシア大学(カナダ)・セントメアリーズ大学(アメリカ)といった英語圏の海外連携大学と協力し、従来以上に活発な学生交流を開始している。

ゼロエミッションへ向けた取組について

環境報告書 2022 の報告内容に関連して、将来的な取り組みとして、ゼロエミッションに向けた体制の検討を期待する。

(令和4年10月18日開催 第2回経営協議会)

<対応状況>

令和4年度よりカーボンニュートラル対策工事の学内予算を獲得し、照明器具のLED化、変圧器及び老朽化した空調設備の更新等を計画的に開始した。併せて、お茶の水女子大学のゼロカーボンキャンパス達成に向けたロードマップ策定を目的として、事業者ヒアリングの検討に着手した。

事務の効率化について

他大学では業務スタッフがラインの研究陣を助けて、研究に専念できるような体制をつくっている。バックオフィスの効率化により教員が研究・教育に専念できるような体制づくりを計画に入れていってはいかがか。

(令和5年3月14日開催 第4回経営協議会)

<対応状況>

・教員活動状況データベースシステムを高度化し、発信情報の充実及び教員の作業負担の軽減化を実現した。具体的には、マスコミ報道や他機関における講演会、公開講座等への参加の実績について、既存の情報を用いて本学ウェブサイト「研究者情報」で公表できるようシステムを改修し、本学からの発信情報の質的向上を図るとともに、researchmap（国立研究開発法人 科学技術振興機構）とのデータ連携機能を強化し、データの確認作業から連携までの期間を短縮（10日程度→2日程度）させ、時間効率化を実現した。このことにより、教員の科学研究費申請に助力するとともに、教員が本来の研究・教育業務に充てられる時間の増大に貢献した。

・令和5年度より財務会計システムに電子決裁を導入し、学内における大幅な業務効率化を実現した。教員においても、煩雑な事務作業が相当量削減され、研究・教育に専念できる体制への一助となっている。